

リレーリング フォローアップ 研修会



東京と大阪で開催

10月13日と14日に会員委員会主催のフィンランド式チームワーク向上研修《リレーリングフォローアップ研修会》を、EAP総研株式会社 代表取締役社長 川西由美子先生を講師に、山越薫、荒木志穂お二人のコンサルタントをアシスタントにお招きし、東京と大阪の前回と同じ会場で開催しました。



川西由美子先生

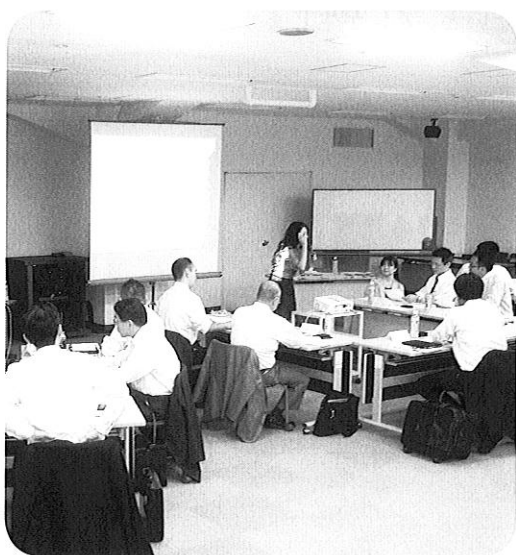
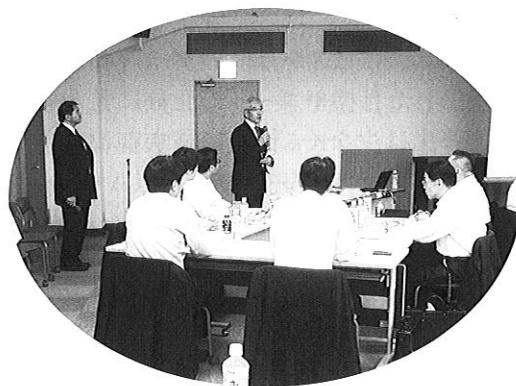
前回の研修会は、終了後のアンケート集計によると受講者全員が研修内容に満足し、7割以上の方が高い有益性を得られていました。大変多くの受講者から「これからの仕事に活かせるとても有意義な研修会だった」と喜びの感想が寄せられていました。



前回のフィンランド式リレーリング研修会の様子

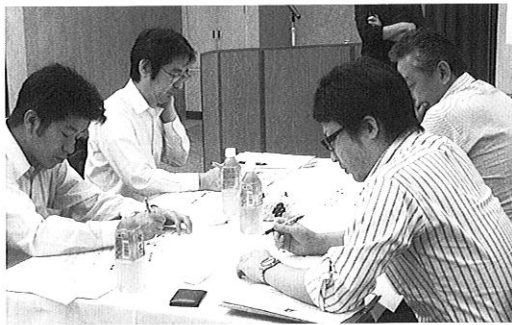


しかし、前回の研修会で行った「決意の実行 DISCUSSION SHEET」の持続確認を怠ると一過性の勉強会で終わってしまい、組織の中に落とし込まれません。そこで決意を実行ベースに落とすための仕組み・仕掛けづくりを更に学んでいただくために、フォローアップ研修会を企画いたしました。



今回のフォローアップ研修会では前回の研修会で決めた目標行動（理想像）を妨げる「壁」を明確にし、「壁」に対してチームで出来ることを見出すポイントを教えてくださいました。

だが実際には3か月前のタイムカプセルに記録した目標やゴールを正確に覚えている研修生は少なく、行動に移すことが出来た人は多くいませんでした。



ゴールを決めたのに行動が出来ない「壁」は二つの要因から生じます。一つ目はライバル行動(「〇〇しよう」という気持を邪魔するもの)です。二つ目は“人間は記憶を忘れる生き物”だからです。つまり人は残っている記憶を元に行動するので、いかに忘れずにいるかが行動の有無を左右します。特にチームで目標を達成するためには、全員が全く同じ言葉で記憶を保持し続け行動しないと、ズレが生じます。





フォローアップ研修会では「壁」が何かを洗い出し、その「壁」を乗り越えるための力を【1】周囲の人が出来るサポートは何か、【2】チーム以外のサポートは何かがあるか、【3】自分自身が出来ることは何か、という視点から挙げていきます。そして「壁」を乗り越えるために次の日・1週間後・1か月後どのような行動をとれたら、ゴールに近づくことが出来るかをイメージすることで、明日からの第一歩をより確実なものにしていきます。

前回の研修会で決めたことがなぜ出来なかったのか？ フォローアップ研修会ではその理由と対処方法のポイントをしっかりと習得できました。



●リレーリングフォローアップ研修会参加者 (敬称略・順不同)

東京会場：

網島広顕(アルプスツール)、辻本大介(曙機械工業)、宮澤正憲・小野達郎(古川精機製作所)、河合保典・加藤信宏・上菌順一(平和テクニカ)、北井正之・北井一己(北井産業)、賛藤浩文・丹野茂樹(北村製作所)、清水大介・小林二郎・有賀純一郎(牧野フライス精機)、伊藤隆志・佐藤豊樹(ミカドテクノス)、長瀬幸泰・長尾昌浩・岩下孝博(ナガセインテグレックス)、橋詰和夫(メクトロン)、市川敏彦・古山一善・佐藤健治(ハイデンハイム)、木下守克(ケー・ティー・システム)、伊藤隆三(育良精機)、石切山日登嗣(商工経済新聞社)、高橋洋二(日本小型工作機械工業会)

大阪会場：

板倉伸介・中村貴典(曙機械工業)、山田一平(キラ・コーポレーション)、木下松幸・黄前明美(日進製作所)、吉川雅順・見市光男・中山 健・越前谷 睦(吉川鐵工)、名和芳治(和井田製作所)、高橋洋二(日本小型工作機械工業会)